

ほぼ月刊 んだもしたん

(諸県弁の「まあどうした事でしょう」)

N. dani shifan

猪八重溪谷へ行ってみた!

8月10日に、家族3人で涼しい所を探しに、初めて猪八重溪谷に行きました。

猪八重溪谷とは、日南市北郷町の広渡川の支流、猪八重川の更に支流、猪八重谷川にかかる、姿の美しい五重の滝、流合の滝、岩つぼの滝など数か所の滝がある場所です。

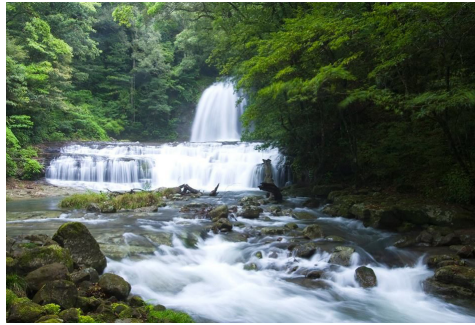
猪八重谷川の周囲は、猪八重風景林に指定され、岩山と森林が綺麗な自然林を形成しています。

恒久の自宅から登山口まで約44km車で約1時間、山道入口から五重の滝までは3kmの道のりで案内板には110分と書かれていましたが、私たちは80分位で到着しました。

川沿いの道は遊歩道が整備されており、途中途中で川を渡りながら登って行きます。

一号橋から7号橋まで強固な鉄の橋があり、初心者の方たちも歩きやすくスムーズ登れました。

午前11時頃から登り始めて、途中でお昼ご飯。川沿いの石に腰かけてゆっくりとおにぎりを食べるのが出来ま



す。

マイナスイオンたっぷりの道中には滝も多くあり、草木に名札がついていますので、勉強になります。

それからダムや発電所などがありました。昔は電気が無く自家発電を行っていたようです。と言っても、規模の小さな、頑張れば自分たちで作れるような? 発電所跡でした。

五重の滝には大きめの泳げるスペースがあったので、次回来的时候は水着を持参しようと思います。

初心者にはお勧めのポイントですヨ!

(等)

ランチ野郎 見参!

「トトロに逢いたい!」の巻

コロナウイルスの影響で県外に遊びに行けない状況が続いていますが、その反面、宮崎県内で今まで行ったことのないところに目を向けるようになりました。宮崎県内でも宮崎駿のスタジオジブリの作品のキャラクターに逢えるスポットが色々あるみたいですね。今回は高原町にリアルなトトロに出逢える場所がある

と聞き行ってみました。

民家の庭に左官職人さんがお孫さんの為に製作したものだそうですが、本格的なコンクリート製で、182センチの自分と比べてもその大きさが分かります。駐車場も3台分整備されていて、赤い傘も100円で貸して貰えます。

あくまで民家の敷地内なので迷惑のかららないように見学しました。

お昼は、車で5分くらいのところにある「杜の穂倉亭」で食事しました。天ぷら定食1400円、トンカツ定食1300円を注文。3000円プラスでデザートと飲み物が追加できます。2階席が景色がキレイですよ!

(大)



「トトロに逢いたい!」の巻

コロナの影響で海外からの観光客、いわゆるインバウンド効果が見られ国内市場に大きな影響を与えています。以前TVで知った話では、外国人観光客のお土産で好まれているのが「日本のイヤホン」という話がありました。手ごろなものから、果ては超高額なものまで大変多くの商品が購入できる為です。高額のイヤホンがニュースになったのは、スケートの羽生選手が所有するコレクション。数十万クラスのものを使っていると報じられました。

「〇〇がそんなに高いのー!」というのは、どの世界でもある話です。価格はトトロコムなどのレビュー、口コミでも本当に多くのイヤホンユーザーが日々こだわりを主張しているのですが、その中に割とよく出てくるのが「沼」という表現。これは、いわゆる抜け出せない沼にハマってしまった、という意味合いの言葉です。大体最初は良い音で音楽を楽しみたい...と手ごろなものを購入し、それで満足するか、いやいやーと深みにハマっていきまますよね。安いものを買って集めたり、高級なものを買ってみたり。そんな中で、とある日本のイヤホンメーカーが打ち出した「提案」が非常に共感できるもので、私も手に入れたものがあります。「final」社の「MAKER3」です。コンセプトは、「自分だけの音を作れるイヤホン」で、究極847通り以上の音を自分で作ることが出来

イヤホンの「沼」

ます。また、「アンティークになり得る道具へ」という考えの元、ネジで開け閉め出来る修理まで可能というものです。さらに、このメーカーはこの企画をクラウドファンディングで発表し、見事に予定額を大幅に上回る資金を得て開発・販売することが出来ました。目標二百万に対し、三千万円以上集まるという結果だった様です。ユーザーの潜在意識、好奇心・探求心に込めている、そして面白いからこそ数字だと思えます。商品レビューを見ると賛否両論あるのですが、今では各ユーザーのオススメのチューニングレシピも公開し合うなど、新たなカスタマイズの沼が生まれた様です。面白いポイントで、「お客様にカスタマイズ性を提供する」というものがあります。個人的に非常に参考になったケースをご紹介します(紀)



「いろいろ旅」

NHKの番組で俳優の火野正平さんが、自転車で日本全国を巡る「日本縦断こころ旅」が、有ります。視聴者から寄せられた「こころの風景」のエピソードをその場所に行っで紹介する番組です。私は、この番組が大好きでよく見ています。

私の「こころの風景」は、西小林小学校の近辺から見える夷守岳・韓国岳・甕岳の山々の風景です。その麓に私の実家は、有ります。四季それぞれ、山々の表情は素晴らしいのですが、中でも雪の積もった冬山の美しさは、格別です。青い空と白い雪のコントラストは、見事ですが、40年ぐらいそれを見ていません。

しかし、子供の頃は、この山々をいつも悲しい気持ちで見続けていました。なぜなら父の酒癖の悪さや暴言のせい、学校から家に帰るのが嫌で嫌でしやうが無かったからです。その為、私達兄弟は大人になって父と喧嘩別れをしてからは、実家に帰ることは、無かったです。10年ぐらい前から両親の大病と老いの為、私は、年に数回、掃除をする為に実家に帰っています。今年の3月に母が、入院しその後、施設に入所しました。コロナ禍の中、面会が叶ったのは、2回だけで時間にし

てわずか15分だけです。しかし、認知症の進んだ母は、悲しいことに私の事を覚えていず、ショックを受けました。そして、7月下旬に家族に看取られる事無く、母は、ひとりで逝ってしまいました。私の心は、母に対する感謝と罪悪感で一杯です。もう少し優しくしてあげていたらと後悔しています。



これから先は、父との確執を考えると、実家に帰るのが億劫になります。しかし、87歳の高齢の父を放って置くわけには、いきません。考えるだけでストレスを感じます。いつになったら、大好きな故郷の山々を心穏やかに眺める事が出来るのでしょうか？おそろく、父が亡くなった後だと思えます。安堵感と悲しさ、入り混じった複雑な心境になるのかと思います。(百)

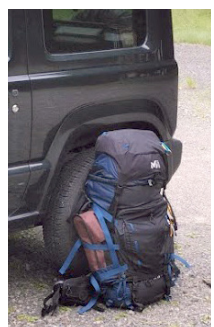
「いんちきクワイマーが行く！」

「祖母山縦走路で食う飲む寝る①」編

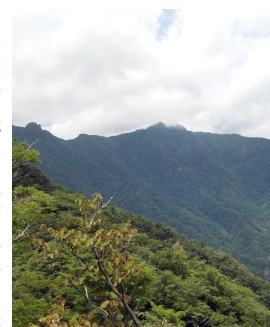
くじゅう、阿蘇、祖母。これらは九州の山々を代表する盟主です。登山口までの道路や駐車場が整備され、手軽なハイキングコースとして親しまれています。しかし、祖母山は、少し趣きを異にしています。登山口までのアクセスや、道路状況はかなり意地悪で、ちょっと気軽にというわけにはいきません。一番乗にのぼれる登山口は、北谷登山口ですが、ここは、普通車では、結構きびしい道路状況で、できれば四駆が望ましい道です。高千穂町と緒方町を繋ぐ、県道7号線。大分との県境にある、尾平越トンネルの脇のスペースも数多い祖母山系の登山口のひとつです。土呂久林道に繋ぐ広場になっており、原っぱですが、車は20台程度は駐車できます。

祖母山系は、30キロにおよぶ長大な縦走路が馬蹄形をなしています。尾平越トンネルからは、本谷山、笠松山、古祖母山、障子岳あたりが日帰りルートで行ける山です。日帰りというのは、太陽が沈まないうちに往復できる距離で、これより遠くの山に向かうなら健脚者やベテランの世界。もしくは泊りの装備を担いで歩くことになるわけです。泊まる小屋があるのは、祖母山九合目小屋と、九折越小屋。あとはテント泊となります。水場の近くにテントを張るなら、ブナ広場という場所が最適です。前置きが長くなりました。今回はこの、ブナ広場で、食う飲

む寝るキャンプ。ブナ広場は、古祖母山と本谷山を繋ぐ縦走路上にある水場(沢の水が使える場所)のことで、ブナの森のような平地です。尾平越トンネルから近いので、山のピークを踏むことなく、単なるテント泊のんびりした山行です。のんびりだけとテント泊なので、装備は多め。ザックを新調して、ミレのサスフェー60リットルに。テント、寝袋、雨具、着替、ランタン、クッカー、ストープ、椅子、ミニテーブル。あとはキンキンに冷やしたビールと、肉、ソーセージ類を小型のクーラーバッグに詰めて、レトルトおかず類、ウイスキー、フランスパン…一人宴会準備万端。とはいえ、ザック、重っ！高速道路をつかわずに、自宅から三時間かけて、尾平越トンネルへ到着。時計は十時半。空模様は微妙。降りませんように。よっこらしょと、食い込むザックの重さを感じつつ、一歩を踏み出します。縦走路に繋がる稜線に出るまでは、標高差200m程を、ひたすらガマンの登りです。腰が据わるまで、しばらくはフラフラしつつゴツゴツの足場を踏み進めていきます。スタート時は、古祖母山の山頂を踏んで、引き返してブナ広場でテント設置すれば、さぞビールも旨かろうな、と目論んでいましたが、方針変更。いけるよ、までで…。あとは、なりゆき体力と相談…。暑い…



ハアハア、重い…ハアハア、何度もし休止をとりつつ、汗まみれで、蟻の歩みで登ります。ようやく稜線まで上がり、久しぶりに踏む縦走路。ほっと一息。前に来たときは、雪で凍えそうだったけど、今回は、暑さでやられています。



左に登れば古祖母山。右に歩けばブナ広場。古祖母方面へ、ぼろぼろと緩やかな登りを進み、頂が雲にかくれている古祖母山にむかいます。途中から傾斜が強くなるのは、知っておくべきこと。織込み済みだったけど、だんだんと足が上がらなくなってきました。耳元でささやく悪魔「もう下って冷たいビール飲もうぜ」。耳元でささやく天使「大丈夫まだまだ行ける」。人は、人って、…弱い生き物ですね…。

自粛警察・マスク警察・帰省警察…、たくさんいる。アヤシイ警察が生まれている。ルールやモラルを声高々に、英雄の剣のごとくふりかざす姿。見ている楽しいものではないと感じるのは、私だけではないと思います。それぞれの価値観、多様性は否定するものではないけれど、「そこに愛はあるのか？」と二言いたい。目標や目的のための団結！それだけが人が集いあう理由ではありません。親、兄弟、友達…人は必ず誰かと繋がりがながら生きていくものです。乱暴者でもいじわるな人でも、とりあえずは社会の網の中で生きていく現実があります。キラキラなアイツも宇宙に一人なら僕らに無駄な出会いなんてない。ゆとりとユーモアを忘れずに、住みやすい社会をキープする工夫を皆が心がけられず！ですすね。(賢)

編集後記